

スギ花粉エキスを舌の下に垂らし、アレルギー体質の改善を目指す「舌下免疫療法」が2014年に保険適用になって3年。千葉市の介護福祉士、黒沼めぐみさん(46)は3年間治療を続け、「一年を経ると目、鼻、喉の症状が改善してきた」と感じる。最低2年以上の継続が必要とされる治療だが、患者の経過を追跡した千葉大病院のチームは「3年は続けた方が良さそうだ」との見方を示している。(高橋圭史)

自宅で簡単に服薬

舌下免疫療法は、アレルギーの原因物質のエキスを1日1回、舌の下に含み、少しずつ体を慣らして症状の抑制を目指す治療だ。医療機関で注射を受ける免疫療法に比べ、痛みがなく、

舌の下にエキス 免疫療法

自宅で簡単に服薬できる。14年にスギ花粉症用の液体の薬剤が、15年にダニによる通年性アレルギー性鼻炎の錠剤が、保険適用になった。薬剤を舌の下に含む時間は液体が2分間、錠剤が1〜2分間程度。その後のみ込む。これまで使えなかった12歳未満の子どもも対象とする新しいスギ花粉症用の錠剤が9月に国の承認を得ており、来年にも使えるようになりそうだ。

千葉大病院では、スギ花粉症の舌下免疫療法を14年度に開始した患者に、毎シーズン後、鼻炎薬の使用状況などについてアンケート調査を行ってきた。対象者は1年目が30人、2年目は24人、3年目は24人だ。点鼻薬と飲み薬を両方使わずに済んだ人の割合は、1年目は23%で、2年目は54%、3年目は58%と上昇。一方、どの年も両方使用した人が13%いた。

治療の満足度についても、「とても満足」または「満足」と回答した人の割合は、1年目の67%に対し、2年目は79%、3年目は92%と年々増加した。

くしゃみ、鼻水、目のかゆみに悩んだ黒沼さんも1年目のシーズンには点鼻薬、飲み薬、目薬が欠かせなかったが、2年目には点鼻薬が不要に。3年目は飲み薬もほぼ不要になり、目薬の使用も大幅に減少した。

同病院耳鼻咽喉・頭頸部外科の診療講師、米倉修二さんは「花粉飛散量の変動なども影響するので、今回の調査だけで断定はできないが、3年続けた方が鼻炎薬が不要になる人が増え、効果が補強されていく傾向がうかがえる」と話す。

3年継続 花粉症抑制

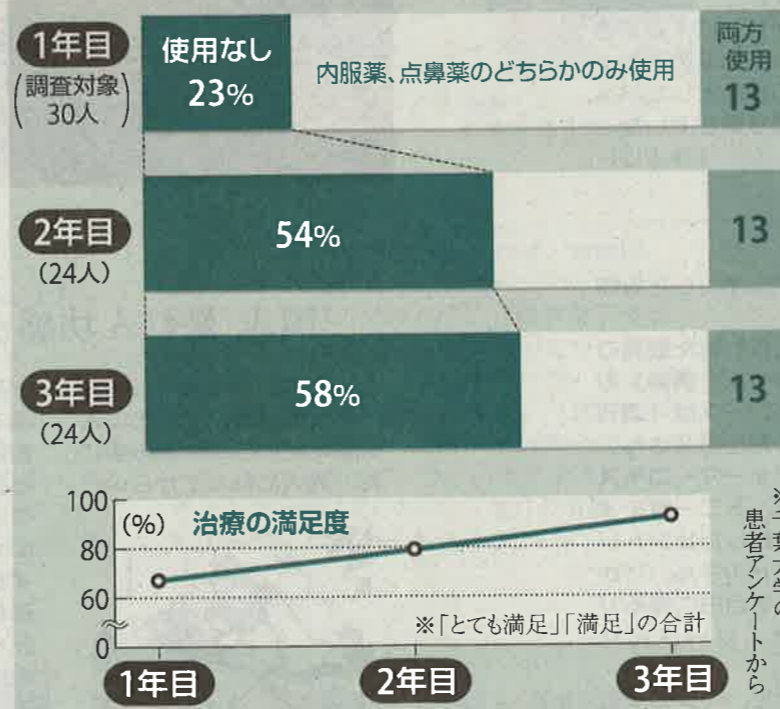
舌下免疫療法の保険適用

2014年	15年
<ul style="list-style-type: none"> スギ花粉症(液体の薬剤) 12歳以上が対象 	<ul style="list-style-type: none"> ダニ通年性アレルギー(錠剤) 12歳以上が対象

治療方法(スギ花粉症の場合)

- 用法**
- 1日1回
 - 舌の下に薬液をたらし、2分間保持
- 効果**
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみなどの改善
 - アレルギー治療薬の減量
- 副作用**
- 口内炎、口内の腫れ、喉のかゆみなど
 - 極めてまれに重いショック症状(呼吸困難、意識の混濁など)
- 治療期間** 最低2年以上

鼻炎薬の使用状況(治療を始めてから3年の経過)



治療が終了して5年後、効果の持続は?



けなければいけないのか。専門医らのグループによる鼻アレルギー診療ガイドライン(指針)では、治療期間について「2年以上。3〜5年が推奨」と幅のある記載をしている。

臨床研究で1年半治療を受けた患者に、終了して5年後の状態を尋ねた同病院の調査では、4割が効果が弱まったと回答。また、欧州の研究チームが行ったイネ科花粉症に対する舌下免疫療法の研究では、治療を3年続けると、やめた2年後にも効果が持続するが、治療を2年でやめると1年後には効果がみられなくなる、と報告された。

米倉さんは「スギ花粉症などで、治療をどれだけ続けられれば効果が長く続き最も効率的か、さらに検証を重ねる必要がある」と語る。